

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 13 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24520827

研究課題名(和文) 西洋中世における特殊地形と王・隠者ネットワーク

研究課題名(英文) Special Topography and King-recluse Network of Medieval Europe

研究代表者

千葉 敏之 (CHIBA, TOSHIYUKI)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：20345242

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、紀元千年における隠者のネットワークの実態を、とくに山岳地帯や潟(ラグーン)、岩窟・洞窟などの特殊地形に着目しつつ、そうした場所に建造された聖堂とその守護聖人について実地に調査し、史資料を分析することで明らかにした。また、紀元千年という時間をもつ終末意識や死に備える心性を背景に、神聖ローマ帝国オットー朝皇帝オットー3世の関与を媒介として、大天使ミカエル崇敬が流布する様相を解明した。

研究成果の概要(英文)：This research investigated the actual situation of the recluse-network around the year 1000, firstly by paying attention to the special topography such as a mountainous area, lagoons or caves, secondly by the on-the-spot investigation on the churches constructed in such a place and dedicated to the special patron saints, and thirdly by analyzing related documents. In addition, the process was elucidated how the archangel Michael veneration spread over Europe through the intermediation of Holy Roman emperor Otto III and in the background of the end awareness and the readiness for death of this time.

研究分野：ヨーロッパ中世史

キーワード：神聖ローマ帝国 聖人 キリスト教 国王 隠者 地形 信仰 ネットワーク

1. 研究開始当初の背景

国家領域(国境)を自明の分析単位としてきた戦後の歴史研究の限界が指摘され、国境主義的・国家形成史的な視点から漏れ落ちてきた歴史事象をいかに捉えるか、という問題が、近年、歴史研究の重要課題となっている。西洋中世については、設定された問題に応じて研究対象の地理的範囲を定める問題地域的手法に加え、地中海、バルト海、黒海等の海を活動圏とする周辺地域が織り成す海域(maritime area)など、自然の地形によって規定された地域を分析単位とする圏域研究が、様々なかたちで積み重ねられてきている。

申請者は、こうした研究状況を踏まえ、基盤研究(C)「西洋中世の環アルプス圏における移動とコミュニケーション」(H20-H23)において、アルプス山脈及びその東西南北の山麓地域を環アルプス圏(pan-alpine area)と捉えた山圏研究を行なってきた。同研究では、移動経路、人間の移動(頻度・経路・理由・効果)、物資の移動(交通・物流)、文化の移動(統治技術・文書主義・宗教運動・ローマ巡礼など)、移動の政治性(皇帝の巡幸など)の5点を、アルプス圏研究の基本視点と位置づけた。そのうえで、申請者が専門とする紀元千年期(950-1050年)を中心に、4年間という限られた研究期間の中で実現可能な課題を予め設定し、最終的に以下の具体的な成果を上げることができた。

(1) 擬聖墳墓の建造と普及：環アルプス圏からエルサレムに巡礼し、帰郷した聖職者・商人等が、聖地巡礼の記念として、エルサレムの聖墳墓教会を模した「擬聖墳墓」の建造をおこなった事実についての研究を行なった。さらに、その成果を、論文「都市を見立てる 擬聖墳墓建造に見るヨーロッパの都市観」として刊行した(2009年)。

(2) 改革派修道士の移動と知の伝播：10・11世紀における改革派修道士、聖職者の移動件数、所属・地位、移動理由の調査、10・11世紀におけるローマ巡礼の動向と、アルプス以北の聖俗高位者のローマ訪問の件数と目的に関する調査を行なった。その成果をもとに、紀元千年における教皇シルヴェステル2世(ジェルベール・ドリャク)の自己形成と経歴、当時の修道院・教会改革運動や神聖ローマ皇帝権、カペー朝王権との関わり、さらには紀元千年の学問知の転回や新たな知の伝播との関係を論じる研究論文「秘義・啓示・革新 ジェルベール・ドリャクとオットー三世の紀元千年」を公刊した(2010年)。

(3) 紀元千年期における写本の移動・貸借：書簡史料・蔵書目録の分析、環アルプス圏に集中する高度な写本作成技術をもつ修道院の分布と蔵書、役割についての調査を実施した。

上記の研究を実施する過程で、新たに課題として浮かび上がったのは、移動経路、移動者・移動物資の性格等の観点に加え、その移

動を誰が求め、誰が経費を支弁したかという問題である。とくに、高度な知性と霊性を兼ね備えた修道士・聖職者の移動には、王侯や教皇、司教等による「招致」(経費負担、通行許可等のケアを含めて)が前提となる。クリュニー系の修道院・教会改革者や霊性の誉れ高い隠者は、改革や霊性の刷新を求める各地の教会領主から招致されることで、頻繁かつ広域に移動した(クリュニー修道院長オド、オディロなど)。また、教会・修道院の改革には蔵書内容の変化と並んで、聖堂の建設・改築・装飾といった物理的な変化を伴うことが多く、さらにはモデルとなった教会・修道院の守護聖人が、改革後には、現地の聖堂の新しい守護聖人となった。

一方で、アルプス以北のゲルマニアおよび環アルプス圏を含め、北イタリア、ローマを統治権下に置いていたオットー朝神聖ローマ皇帝、とくにオットー3世は、教会改革者の移動によって確立されていた改革派ネットワークと並行して、当時イタリア半島全域に広がりつつあった隠者(隠修士)を束ね、彼らを自身の帝国理念の実現に積極的に活用した。オットー3世はローマの隠修士系修道院(聖ボニファチオ=アレッシオ修道院)の修道士を、ポーランドなどへのキリスト教伝道のために派遣する一方、自身は999年、隠者ロムアルドゥスの勧めで、聖ミカエル崇敬の本山モンテ・ガルガーノに参籠した。つまり、自ら隠者として振る舞ったのである。紀元千年を前に終末意識が高揚する中、王が聖山に参籠した理由は何であったのか、これを機に聖ミカエル崇敬がイタリアから環アルプス圏を経てフランスやドイツに波及した理由は何であったのか。これらの問題の解明は、西洋中世における王と隠者の関係、統治理念と隠者的霊性との関係の解明に役立つだけでなく、西洋中世の移動・コミュニケーション研究にも大きく資することとなる。

以上の認識から、代表者は、これまでの研究成果と研究資源を活用し、紀元千年期における隠者のネットワークのあり方、隠者とオットー朝宮廷との関係、山岳地帯や淵、洞窟などの特殊地形に建造された聖堂群と守護聖人の流布について調査・分析を行なうことで、この時代の王=皇帝と隠者との関係性を明らかにし、西洋中世における君主の統治理念と君主に求められる霊的資質の問題に新たな知見を加えることを研究課題とした。

2. 研究の目的

4年間の研究期間における具体的な研究目的は、以下のとおりである。

(1) 紀元千年期の隠者ネットワークの解明
ヴェネツィア、カラブリアなど、ギリシア文化との接点から波及した隠者のネットワークの全体像を史料に即して明らかにすること。

(2) 聖ミカエル崇敬の拡張過程の解明
聖ミカエル崇敬の本山である中部イタリア

のモンテ・ガルガーノから、洞窟教会という建築様式がいかに広まっていったか、その担い手はだれであったのか、という点について解明すること。

(3) 王の参籠についての解明

999年にモンテ・ガルガーノに参籠した皇帝オットー3世を中心に、王が聖山に入るこの意味を解明すること。

(4) 改革派修道士=建築家の動向の解明

北イタリア、ブルゴーニュ地方、ローマ、ノルマンディーと広域で活躍した、改革派修道士にして建築家のグリエルモ・ダ・ヴォルピアーノの果たした役割について解明すること。

3. 研究の方法

本計画は、上記の研究目的に即し、以下の4つの研究項目に沿って行なわれた。

(1) 紀元千年期の隠者ネットワークの解明: 950年頃からヨーロッパに現れた隠者(隠修士)は、紀元千年頃からイタリア半島を中心にネットワークを広げ、11世紀中葉には隠修士の修道院(カマルドリ会等)が創設されるに至る。この隠者は同一の根源から派生したのではなく、ヴェネツィアや南イタリアのカラブリア、アドリア海沿岸地域など、ギリシア典礼・ギリシア修道制と文化的接点を持つ、複数の地点から同時平行的に波及していった。したがって、本研究計画の第一段階として、これら隠者のネットワークの形成と展開の実態を解明するための史料を収集・分析し、また拠点となった都市や修道院、波及経路の現地調査を通じて、その全体像を明確にする作業が必要となる。その際、とくに、ヴェネツィアの潟に庵を結んだ聖マリノス、カラブリアからローマへ北上する隠者の流れを生んだ聖ネイロス(ニルス)の動向を軸に据える。

(2) 聖ミカエル崇敬の拡張過程の解明: 以下の(3)・(4)と密接に関わる問題であるが、聖ミカエル崇敬の伝播経路を本山モンテ・ガルガーノ(モンテ・サントアンジェロ)の聖ミカエル聖所(聖堂)を起点とする、2つの伝播経路について分析を行なう。第一は、古代ローマ時代以来の巡礼路であるヴィア・フランチェジナを經由し、アルプスを越えて、フランスのモン・サン・ミシェル聖堂に至る伝播経路である。第二は、アルプスの別の峠を經由して、ドイツ・ヒルデスハイムの聖ミカエル聖堂に至る伝播経路である。具体的な方法としては、巡礼の残した記録、巡礼案内、地図史料に加え、聖ミカエルを守護聖人とする聖堂の分布、各聖堂に関わる証書類の分析を通じて、伝播の経路と担い手、聖堂建築を実現した庇護権力を明らかにする。

(3) 王の参籠についての解明: 999年にモンテ・ガルガーノに参籠した皇帝オットー3世について、999年に滞在したその他の修道院を調査し、滞在時に発給した証書の分析を

中心に、王が聖山に入った意図を政策的・理念的側面から分析する。同時に、ヴェネツィア総督ピエトロ・オルセオーロ1世ら、聖山に籠った他の君主との同時代的な比較を行ない、王・君主の聖山参籠がこの時代に持ちえた意味を明らかにする。

(4) 改革派修道士=建築家の動向の解明: 聖ベネーニユ派の改革修道士にして、建築家でもあったグリエルモ・ダ・ヴォルピアーノ(聖ベネーニユのギョーム)の活動について、彼が関わった教会建築の調査、彼を招致した王侯・司教の証書の分析を通じて、特殊地形を活用したグリエルモの聖堂建築の意図を明らかにする。グリエルモの移動は出身地の北イタリア(カナヴェーゼ地方)からローマ(ファルファ)、ブルゴーニュ地方(ディジョン)、ノルマンディーにまで及んだが、彼が関わった聖堂には共通の特徴(ロトunda=円形堂など)が見受けられる。また、グリエルモの洗礼時に代父を務めたのはオットー1世であり、すでにその時点から、リウドルフィン家(オットー朝)とグリエルモの家との家門間関係が構築されていた。グリエルモをめぐる人脈を個別に検証し、オットー朝宮廷・家門との結びつきとグリエルモの活動との関係性、さらには聖ミカエル崇敬を中心とする聖人崇敬の伝播、特殊地形に庵を結び、また修道院を建てた隠者との関係性を明らかにする。

4. 研究成果

初年度にあたる平成24年度は、上記の研究項目のうち(1)・(2)・(4)の3項目を研究活動の中心にすえ、さらにその相互の連関を解明することを課題とした。まずそのための基礎作業として、紀元千年期の隠者の活動、聖ミカエル崇敬の展開、紀元千年期におけるギリシア典礼に関する研究文献を収集し、その分析をもとに現地での調査計画を策定した。この調査計画に従い、夏期休業期間(8月)の3週間を使って現地調査を行なった。今回は、フランス(とくにノルマンディー地方)における改革派修道士=建築家の活動と地形・建造物の調査、関連史料の調査・収集を行なった。調査の結果、紀元千年期の改革派修道士の活動拠点であったブルゴーニュ地方を中継地として、アルプス南麓の北イタリア(オルタ・サンジュリオ)とノルマンディー地方(ノルマンディー公の統治領域)とが、フランチェジナ街道(ブザンソン~レマン湖~大ベルナル峠~アオスタ)を主なルートとして結ばれていたことが明らかとなった。本年度の研究を通じ、この改革派ネットワークのチャンネルと南イタリアからローマに及んだギリシア典礼のネットワークが、モンテ・ガルガーノの聖ミカエル崇敬に端を発するネットワークといかなる関係を結んでいたか、という点を解明することが、次年度以降の研究課題となることが確認された。

2年目にあたる平成25年度は、(1)・(2)・(3)に重点を置きつつ、とくにイタリア北東部(アルプス山圏)、クライン、イストリア、ケルンテン辺境伯領地域に関する研究を進めた。8月から9月に行なった海外出張では、まずミュンヘン大学附属図書館を中心に、プロジェクトに関する史資料を収集し、その後、イタリア北東部(ボルツァーノ、ヴェローナ、マントヴァ)、クライン・イストリア辺境伯領該当地域(コーペル、クラニ)、ケルンテン辺境伯領該当地域(フィラッハ、クラゲンフルト、ミルシュタット)での現地調査を行なった。紀元千年期の神聖ローマ帝国の東部辺境を構成したこれらの地域は、アドリア海を舞台とする物資・人の流通、アルプス山圏東部における峠道を行き来する物資・人の移動の結節点として、ビザンツの影響下に、固有の信仰実践を育んだ。今回の調査で得られた知見は、この圏域に存在した修道院・教会群が紀元千年期の隠者ネットワークならびに聖ミカエル崇敬と関係を持っていたこと、神聖ローマ皇帝の滞在が、イタリア半島における隠者の場合と同じく、ネットワークの形成・結節に大きな影響を及ぼしていたことである。これらの成果を踏まえ、研究年度の後半では、収集した文献と史資料の解析を進めつつ、次年度における研究成果の公表へ向けた準備をおこなった。

3年目にあたる平成26年度は、(2)・(4)に重点を置いて研究を行ない、まず(2)については、初年度に調査を行なったモン・サン・ミシェル修道院と英仏海峡を挟んだ「対蹠地」にあたる、イギリス・コーンウォール地方のセント・マイケルズ・マウント修道院址を訪れ、実地調査を行なった。また、(4)については、紀元千年期の修道院改革の広域ネットワークのうち、大陸からカンタベリ大司教座に至る経路を画定していくフィールド調査と、それを裏付けるための史資料の調査・収集を、イングランド南部(ウィンチェスター)とフランス中部(フルリ、サン・ブノワ・シュル・ロワール)を中心に行なった。本調査では、イングランド南部とフランスを結ぶ改革派修道院のネットワークの存在を確認し、それが紀元千年期の改革派ネットワークと密接な関係が明らかとなった。また、王家の接続という点でも、オットー朝とイングランドのウェセックス王家との関係が、紀元千年期の重要な血縁関係=政治同盟をなしていたことも明らかとなった。これらの成果を踏まえ、研究年度の後半では、収集した文献と史資料の解析を進めつつ、次年度における研究成果の公表へ向けた準備をおこなった。

過去3年間の研究成果から、神聖ローマ帝国とノルマンディー地方に存在した婚姻ネットワーク、島上の山岳修道院(モン・サン・ミシェル、モン・サン・ミシェル修道院と英仏海峡を挟んだ「対蹠地」)にあたるコーンウォール地方のセント・マイケルズ・マウント

修道院址)という特殊地形を結ぶ聖ミカエル崇敬を通じた崇敬兄弟的關係、イングランド南部(ウィンチェスター)とフランス中部(フルリ、サン・ブノワ・シュル・ロワール)との人的交流・聖人崇敬の共有などが明らかとなった。

4年間の研究計画の最終年度にあたる平成27年度には、これまでの過去3年間の研究を経て残されている地域の調査を行なった。まずイタリアのアレッツォを拠点に、アレッツォ司教座教会、ペルージャ聖ミカエル聖堂において遺構調査を行ない、続いてピレネー山圏のペルピニャンを拠点に、サン・ミシェル・ド・キユクサ修道院、カニゲー修道院において経路・立地調査・遺構調査・史料調査を行なった。さらに、フランスのミュールズを拠点に、フランス中部の聖ミカエル崇敬の拠点ル・ピュイ内の大聖堂及び聖ミッシェル・アギレ教会の遺構調査・資料収集を行なった。最後にドイツ南部のミュンヘンを拠点に、バンベルクのミヒャエルスベルク修道院及びバイエルン州立図書館を訪問し、遺構調査ならびに史料調査を行なった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

千葉敏之、書評・藤井真生著『中世チェコ国家の誕生 君主・貴族・共同体』(昭和堂、2014年)、東欧史研究、37、2015、60-67頁、査読無

千葉敏之、ジャック・ルゴフの銀河系、思想、1083、2014、139-143頁、査読無

〔学会発表〕(計1件)

千葉敏之、教皇の地理的身体(シンポジウム「回路としての教皇座 13世紀ヨーロッパにおける教皇の統治」)、日本西洋史学会第64回大会、立教大学(東京都豊島区西池袋)、2014年6月1日

〔図書〕(計6件)

南塚信吾、千葉敏之(102名中4番目)、ミネルヴァ書房、新しく学ぶ西洋の歴史 アジアから考える、2016、450頁(12-13頁)

近藤和彦、千葉敏之(12名中2番目)、山川出版社、ヨーロッパ史講義、2015、243頁(32-54頁)

木村靖二、千葉敏之、西山暁義(12名中1番目)、山川出版社、ドイツ史研究入門、2014、479頁(3-12、14-64、299-318、331-352、459-464頁)

吉田ゆり子、千葉敏之(19名中1番目)、東京外国語大学出版会、画像史料論、2014、

325 頁 (10-25, 122-151 頁)

岸本美緒、羽田正、千葉敏之 (7 名中 4 番
目) 山川出版社、新世界史、2014、449 頁
(10-11、128-163 頁)

岸本美緒、羽田正、千葉敏之 (7 名中 4 番
目) 山川出版社、新世界史教授資料 授業
実践編、2014、452 頁 (40、155-183 頁)

6 . 研究組織

(1) 研究代表者

千葉 敏之 (CHIBA TOSHIYUKI)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究
院・教授

研究者番号 : 20345242